

矛盾の集中心で「住民こそ主人公」と

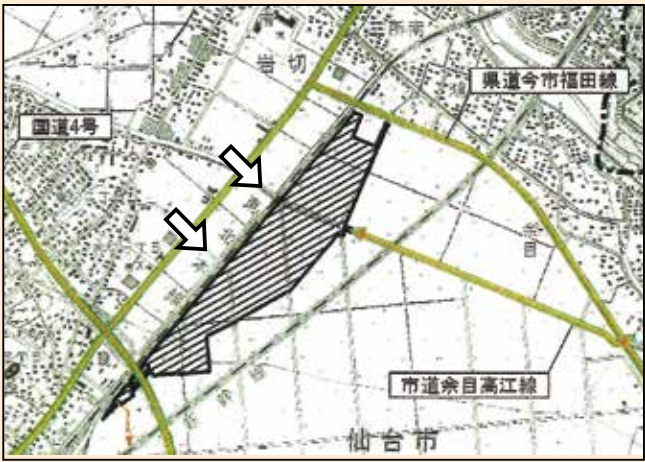
大内 真理 県議会議員

皆さまから宮城県議会に送っていただき一年半。お預かりした声と想いを全力で代弁し、具体的な改善を実現してまいりました。

宮城野区は村井県政・奥山仙台市政による矛盾と激動の集注点になっています。

●宮城野原地域には、予算300億円（うち270億円はJR貨物ターミナル駅移転に使われる）「広域防災拠点」計画地があります。長町・利府断層帯の直近で、いざという時に機能を果たせないことなどの、住民に対する説明会が一度も行われていない事が明らかになってきました。

●岩切・燕沢地域では、移転してくるJR貨物ターミナル駅のため、24haの水田と2つの踏切が潰されます。道路拡張など必要な対策について仙台市とのすり合わせが不十分なまま着工されようとしており、渋滞・内水・騒音・振動・光害などの様々な被害を誘引する懸念は、2度の説明会でもまだ払拭されていません。



矢印が廃止される踏切。迂回路が計画されています

●仙台北港周辺の蒲生地域では、市民合意のないまま石炭火力発電所が建設されはじめています。電力自由化に伴い関西電力や四国電力が住友商事など大企業とタッグを組んで被災地に乗り出しているのは、安い土地と強力な送電線網という条件がそろっているからです。関西電力が発電した電気は1Wも宮城県内で活用されない計画です。

●石炭火力発電所は健康被害や環境汚染、温室効果ガスの大量発生が懸念されています。300名もの方々が命を失った被災地であり、世界的に有名な生物多様性に富み、渡り鳥渡来地である「蒲生干潟」を有するのが蒲生地域。「電気は東京に、利益は関西に、汚染は被災地に」という開発は、納得できません。

2月定例県議会(第359回)を終えて

2月17日に開会した2月定例議会が、3月16日に閉会しました。

本議会は、安倍政権の暴走政治と国民との間の矛盾が深化するもと、また震災から6年目を迎える中で開かれました。

党県議団は、暴走政治ストップ、「富県戦略」と「創造的復興」で被災者・県民を置き去りにする村井県政の諸問題を明らかにし、積極的に論戦しました。

1、議案の賛否について

今議会には、138の議案が提出されました。党県議団は、予算議案や蒲生干潟にかかる七北田川の河川堤防、雄勝の防潮堤2件など全部で29議案に反対をしました。

2、意見書・請願等について

(1) 意見書について

①指定給水装置工事事業者への更新制の導入等を求める意見書②無料公衆無線LAN(Wi-Fi) 環境の整備促進を求める意見書③今後の通

商交渉に関する意見書④政治分野への男女共同参画を推進するための法整備を求める意見書⑤性犯罪等被害者を支援するワンストップ支援センターの設置等を求める意見書

⑥高齢者も若者も安心できる年金制度の実現を求める意見書⑦復旧・復興事業の総仕上げのための人材確保を求める意見と見書の、7本の意見書が本会議に提案され、全会一致で可決されました。党県議団は、③と⑦を提案しました。

(2) 請願について

「被災者に医療・介護の負担免除継続を求める請願」が本会議にかかり、わが党県議団とみやぎ県民の声が発議討論をしました。この請願には、わが党議員団とみやぎ県民の声、社民党県議団、無所属の会の22名が賛成しましたが、自民・公明などの反対多数で不採択となりました。

(3) その他

閉会日に「北朝鮮による弾道ミサイル発射に抗議する決議案」を全会一致で採択しました。

所属する常任委員会・特別委員会



大内 真理
(宮城野区)
・保健福祉委員会
・地域防災調査特別委員会



角野 達也
(太白区)
・文教警察委員会
・地域活力調査特別委員会



内藤 隆司
(大崎市区)
・建設企業委員会
・地域防災調査特別委員会



中嶋 廉
(泉区)
・環境生活農林水産委員会
・大震災復興調査特別委員会



福島かずえ
(若林区)
・経済商工観光委員会
・大震災復興調査特別委員会



天下みゆき
(塩釜市区)
・保健福祉委員会副委員長
・いじめ・不登校等調査特別委員会



三浦 一敏
(石巻・牡鹿区)
・建設企業委員会副委員長
・総合観光戦略調査特別委員会



遠藤いく子
(青葉区)
・総務企画委員会
・地域活力調査特別委員会